

◆ 連合の考えと取り組みについて

連合の考え

「就職氷河期世代支援プログラム」により、この世代を社会全体で支援するための予算約650億円が確保され、全国において支援体制も整備されつつある矢先に、新型コロナウイルス感染拡大の問題が、わが国に、容易ならざる事態を引き起こしている。**この世代に対する支援を再度徹底するとともに、「新たな就職氷河期世代」を生じさせないための施策の遂行も不可欠**である。

そもそもわが国は、雇用のセーフティーネットが脆弱である。足もとのコロナ禍はその問題を端的に露呈させている。失業者・休業者が、その意向を尊重されつつ、職を得られる仕組みや社会参加の機会が必要である。

そして、「新たな就職氷河期世代」を生み出さないためにも、**様々な業種・職種の壁を越えた雇用のマッチング**は極めて重要であり、**給付・教育訓練をセットにしたセーフティーネットの構築・拡充**も必要である。

連合の取り組み

- 地方連合会などによる**無料「なんでも労働相談ダイヤル」**の実施(P2:当事者の声引用)
- 地域における「良質で安定的な雇用の創出・確保」に関する取り組み協力(厚生労働省:**地域活性化雇用創造プロジェクト**への参画)
- 連合「**重点政策**」に盛り込み、政党や省庁等、各種要請行動の実施



連合HP: 就職氷河期世代支援に関する取り組みページ

「就職氷河期世代」とは、概ね1990年半ば～2000年半ばに学校卒業期を迎えた世代です。この世代は、雇用環境が厳しかった時期に就職活動を行いましたが、希望する就職ができず、現在も不本意ながら不安定雇用や無業状態にある場合が多く、内閣府資料によると、就職氷河期世代は約100万人と見込まれています。

労働・賃金・雇用

- > 春闘（春季生活闘争）
- > 最低賃金
- > 労働時間
- > 不払い残業
- > 過労死（過労死等ゼロに向けた取り組み）
- > 労働保険・社会保険の加入
- V 雇用・労働に関する取り組み

連合HP: 就職氷河期世代支援に関する取り組みページ

◆ 連合無料「なんでも労働相談」ダイヤルでの当事者の声 連合

- 来年で派遣先が3年目になる。自分の前の方は派遣先に直雇用になった。自分もそれを望んだが、それは厳しいと言われた。事務をこれ以上増やすことができないと派遣先が言われている。**自分は氷河期世代であり派遣しか働けなかった。今回も3年間働き、続けたいのにも関わらず続けられず、納得いかないし、悔しい。なぜこのような有期雇用、派遣の働き方は弱い立場になってしまうのか。**(派遣社員、女性／兵庫県・2020年12月)
- 息子の件で相談、**息子は氷河期世代で仕事が見つからない。**心配でしょうがない。
(本人代理(母)／千葉県・2021年3月)
- 私は2009年にリーマンショックの影響により**派遣社員を会社都合で解雇**されて以降、全く仕事をさせてもらえません。雇用形態様々で応募するも不採用ばかりで、数字では千単位だと思われます。特に選り好みしているのではありません。むしろ選り好みをしているのは採用側です！派遣村には男性の姿しか見えません。女性の姿見たことない。職種によっては、**女性への隔たり採用が横行してる**のではないかと憤りを感じます。ハローワークは上から目線なので正直相談には行きたくありません。職業訓練やキャリアカウンセリングは時間を無駄に要します。働く人ばかりではなく仕事をさせてくれない人への相談にも乗ってください。(男性、40代／兵庫県・2020年11月)